

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
現代の国語	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	高等学校 新訂 現代の国語 (第一学習社)
副教材	字義で覚える常用漢字 (浜島書店)

科目目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

学期	考査	単元名 (考査範囲)	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考査	中学校の復習 高校国語入門	・中学校の学習内容から出題	○	○	○
	期末考査	考えを組み立てる 効果的に伝える 論理の展開を捉える	・筆者のものの見方や感じ方を理解するとともに、自己を見つめ、自己の生き方を模索するきっかけを得る。 ・話す目的や相手に応じた適切な言葉遣いや使い分け、声量の調節の仕方などを学習する。 ・文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉える。	○	○	○
	課題考査	1学期の復習	・夏季課題より出題	○	○	○
2学期	中間考査	情報を集める 情報を活用する 相手を説得する	・情報の信頼性、妥当性を正しく判断し、適切な情報の集め方と選び方を学習する。 ・さまざまなグラフ・図の特徴や読み取り方を理解し、適切に情報を捉える方法を学習する。 ・読み手に分かりやすく、自分の思いを正確に伝えるための書き方について学習する。	○	○	○
	期末考査	根拠を提示して主張する 主張を把握する 主張を吟味する	・主張と根拠を組み合わせ、主張を行う意図や背景を相手に伝える方法を学習する。 ・文章の要点を適切に取り出すことで、筆者の主張を分かりやすく示す方法を学習する。 ・評論文の構成、問題設定の仕方、具体例の挙げ方に注意して主張を捉える。	○	○	○
	課題考査	2学期の復習	・冬季課題より出題	○	○	○

SDGs番号8：働きがいも経済成長も
 経済に関する文章を読み、社会や消費活動等の在り方について考える。

3 学 期	学 年 末 考 査	主張を比較する 合意を形成する 実用文を読む	<ul style="list-style-type: none"> ・対義語や同義語等の表現に注意して読み、筆者が前提としている考え方や主張に共通点を見出す。 ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら話し合う方法を学習する。 ・新聞記事や法律の改正に関わる文章を読み、目的に応じた文章の読み方や書き方を学習する。 	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 1年間の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。 	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字を文や文章の中で活用することができる。 ・文章の効果的な接続の仕方を理解している。 ・語彙力や漢字力を身に付け、活用することができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成と論理の展開をとらえ、学習課題に沿ってまとめることができる。 ・事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫することができる。 ・目的や場に応じて効果的に話したり、的確に聞き取ったりすることができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な態度で授業に参加し、主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・課題等を決められた期日に提出している。 ・読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>1 授業を受けるときの約束事</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 忘れ物をしない。(忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る) (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 正しい姿勢で授業に臨む。 <p>2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。 <p>3 成績のつけ方</p> <p>上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
言語文化	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修単位	3単位
教科書	精選言語文化（東京書籍）
副教材	字義で覚える常用漢字（浜島書店） ミクサ古典文法（数研出版）

科目目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	中学校の復習 高校国語入門	・中学校の学習内容から出題	○	○	○
	期末考查	【現代文】小説	・作品の構成や場面設定に着目し、登場人物の心情の変化について考える。	○	○	○
		【古文】古文入門	・古典の世界に親しむことの意義を知ることによって言語文化への関心を持ち、古文の言葉やきまりについて理解する。			
【古文】随筆		・随筆に描かれた筆者の心情について理解し、作品に込められたものの見方や考え方をとらえる。				
【漢文】漢文入門		・古典としての漢文を読むことの意義を知ることによって言語文化への関心を持ち、訓読のきまりについて理解する。				
		【漢文】寓話	・物語に表れた教訓を読み取り、寓話の現代における意義を考える。			
2学期	課題考查	1学期の復習	・夏季課題より出題	○	○	○
	中間考查	【現代文】随筆	・随筆のものの見方や感じ方、表現の特色に注意して随筆を読み、感性や言語感覚を磨く。	○	○	○
		【古文】歌物語	・作品の表現の仕方に注意し、歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。			
		【古文】日記	・日記文学を読み、描かれた出来事とその時の筆者の心情や、中世のものの見方や考え方をとらえる。			
		【漢文】詩文	・漢詩のきまりについて理解し、作品に描かれた情景や心情を読み取る。			
期末考查	【現代文】詩歌	・詩のリズムや言葉の響きに注意して読み、作品に描かれた情景や作者の心情について理解する。	○	○	○	
【古文】和歌	・和歌の特徴や技法について理解し、それぞれの作品に詠まれた情景や心情を読み取る。					
【漢文】史話	・史話に描かれた登場人物の言動や心情を的確に読み取るとともに、史話が読み継がれてきた意義を考える。					

3 学 期	課題 考 査	2学期の復習	・冬季課題より出題	○	○	○
	学 年 末 考 査	【現代文】 作品を読み 比べる	・同一のテーマについて書かれた多様な形式の作品を読み 比べ、テーマの継承と変容について考える。	○	○	○
		SDGs 番号 15 : 陸の豊かさを守ろう 桜について書かれた多様な形式の作品を読み、時代を超えてテーマとされている自然について、多様性損失阻止の重要性について考える。				
			【古文】 作り物語と軍 記物語 【古文】 俳諧 【漢文】 思想	・文章の展開や表現の特色に注目し、他の作品等との関係 をふまえて、内容の解釈を深める。 ・俳句の修辞を理解し、それぞれの作品に読まれた情景や 心情を読み味わう。 ・古代中国の思想について理解を深め、ものの見方、考え 方を豊かにする。		
※	※学年末考査が終了し た後の授業内容 1年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○	

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字を文や文章の中で活用することができる。 ・文語で書かれた文章の特徴を理解することができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に込められた作者の心情や、ものの見方や考え方をとらえ、内容を解釈することができる。 ・作品を通して論理的に考えたり深く共感したり豊かに想像したりすることができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な態度で授業に参加し、主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・課題等を決められた期日に提出している。 ・読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>1 授業を受けるときの約束事</p> <p>(1) 忘れ物をしない。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る）</p> <p>(2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつけ、正しい姿勢で授業に臨む。</p> <p>2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。</p> <p>(1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。（古典については別途指示）</p> <p>(2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモを取る。</p> <p>(3) 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。</p> <p>(4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。</p> <p>(5) 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。</p> <p>3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価する。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
現代の国語	[国語]

履修学科	総合学科
履修学年	第1学年
履修単位	3単位
教科書	新 現代の国語 改訂版 (三省堂)
副教材	字義で覚える常用漢字 (浜島書店)

科目目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学期	考査	単元名 (考査範囲)	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1 学期	課題考査	中学校の復習 高校国語入門	・中学校の学習内容から出題	○	○	○
	期末考査	入門 1 わかり合うために 2 確かな情報を伝えるために 3 情報を生かすために	・写真を見て想像力をはたらかせ、石像がなんと言っているのか、「せりふ」を考える。 ・文章を読み、概要を把握する。 ・主張と事例の関係を捉え直す。 ・二つの文章を読み、それぞれの内容を要約する。 ・情報と適切につきあう方法について話し合う。 ・自分で調べた資料を加えて考えをまとめる。 ・まとめた自分の考えを発表する。 ・筆者の考える災害情報が避難に結びつかない理由を整理する。 ・減災のためのツールをつくる時に最も大切なことは何か、筆者の考えを説明する。 ・調べたことを整理して、報告書や説明資料などにまとめる。	○	○	○
	課題考査	1学期の復習	・夏季課題から出題	○	○	○
2 学期	中間考査	4 よりよい読み手になるために 5 場に応じて伝えるために	・事例を比較して述べる方法の、長所と短所について考える。 ・それぞれの部分で、筆者の主張がどのような事実に基づいているかを整理・分析する。 ・文章中から「問題」「結論」「理由」の要素を読み取り、筆者の主張をつかむ。 ・AとBの文章を読み比べ、それぞれの文章の伝えたいことはどのようなことか、各自で考える。	○	○	○
	期末考査	6 説得力を高めるために	・本文をもとに筆者の体験の意識をまとめる。 ・本文中の表現が意味する内容を明らかにして、タイトルに込められた筆者の考えを読み取る。 ・引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深める。	○	○	○

SDG s 番号 14 : 海の豊かさを守ろう
二つの文に注意しながら論旨を理解し、海洋プラスチックごみ問題について考えを持つ。

	課題考査	2学期の復習	・冬季課題から出題	○	○	○
3学期	学年末考査	7 考えを共有していくために	・本文中の表現を手がかりに筆者の考えをまとめる。 ・本文からわかるA Iの不完全性をまとめる。	○	○	○
		8 よりよい書き手になるために	・共通するテーマについて書かれた複数の文章から考えたことを、具体的な事例を用いて書く。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 1年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字を文や文章の中で活用することができる。 ・文章の効果的な接続の仕方を理解している。 ・語彙力や漢字力を身に付け、活用することができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成と論理の展開をとらえ、学習課題に沿ってまとめることができる。 ・事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫することができる。 ・目的や場に応じて、効果的に話したり、的確に聞き取ったりすることができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な態度で授業に参加し、主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・課題等を決められた期日に提出している。 ・読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>1 授業を受ける際の約束事</p> <p>(1) 忘れ物をしない。（忘れ物がある場合は、事前に教科担任に申し出る。）</p> <p>(2) 正しい姿勢で授業に臨む。</p> <p>(3) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。</p> <p>2 勉強の仕方 ※どの場面でも、<u>自分なりに考える</u>ことが大切です。</p> <p>(1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。</p> <p>(2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。</p> <p>(3) 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。</p> <p>(4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。</p> <p>(5) 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。</p> <p>3 成績のつけ方</p> <p>上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
言語文化	[国語]

履修学科	総合学科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	高等学校 新編言語文化 (第一学習社)
副教材	字義で覚える常用漢字(浜島書店)

科目目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

学期	考查	単元名(考查範囲)	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	中学校の復習 高校国語入門	・中学校の学習内容から出題	○	○	○
	期末考查	近現代編 小説を読む(一) 古文編 古文入門 漢文編 漢文入門	・描写に表れた登場人物の心情をそれぞれの視点に立って読み解く。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・我が国の言語文化についての理解を深めるために古典の世界に親しむことの意義を知る。 ・古文の読み方や表現に慣れ、作者や登場人物の考えを読み取る。 ・話の内容を口語訳で押さえながら、古文特有の仮名遣いと言葉に慣れる。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	・夏季課題から出題	○	○	○
2学期	中間考查	近現代編 詩の楽しみ	・近代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品に示された作者の思いを読み取る。 ・作品に表れているものの見方、考え方を捉え、内容を解釈する。	○	○	○
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>SDGs番号11:住み続けられるまちづくりを</p> <p>日本文化の特色について書かれた文章を読み、文化を保護し継承しながら豊かな社会をつくる態度を養う。</p> </div>				
		古文編 古文に親しむ 漢文編 故事成語	・現代に通じる人間のありようを味わいながら、古文の世界への親しみを深める。 ・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。			

3 学 期	期末 考 査	近現代編 小説を読む（二） 古文編 物語を楽しむ 漢文編 漢詩の鑑賞 詩歌の調べ	・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・和歌を含む物語の読み取りを通して、古文への興味・関心を広げる。 ・表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。	○	○	○
	課題 考 査	2学期の復習	・冬季課題から出題	○	○	○
	学年 末 考 査	近現代編 短歌と俳句 古文編 随筆を読む 漢文編 寓話 近現代編 小説を読む（三）	・我が国の言語文化に特徴的な、俳句の表現技法とその効果について理解する。 ・折句を用いて、感じたことを短歌で表す。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・漢文の散文作品に触れて読み慣れるとともに、鳥に託された寓意を読み取る。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 1年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字を文や文章の中で活用することができる。 ・文語で書かれた文章の特徴を理解することができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に込められた作者の心情や、ものの見方や考え方をとらえ、内容を解釈することができる。 ・作品を通して論理的に考えたり深く共感したり豊かに想像したりすることができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な態度で授業に参加し、主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・課題等を決められた期日に提出している。 ・読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>1 授業を受けるときの約束事</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 忘れ物をしない。（忘れ物がある場合は、事前に教科担任に申し出る。） (2) 正しい姿勢で授業に臨む。 (3) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 <p>2 勉強の仕方 ※どの場面でも、自分なりに考えることが大切です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。（古典については別途指示） (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。黒板をしっかりと書き写す。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。問題集をもう一度解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読む。漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。 <p>3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価する。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
論理国語	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	探求論理国語（桐原書店）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言語をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	1年次の復習	・春季課題から出題。	○	○	○
	期末考查	評論Ⅰ 評論Ⅱ	・段落と段落の関係に注意しながら評論の基本的な文章構成を習得し、筆者の主張を読み取る。 ・対比や具体例に着目して筆者の主張を読み取り、言葉の可能性について幅広い視野から考えを深める。	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	・夏季課題から出題。	○	○	○
2学期	中間考查	体験と思索 「書く」一問いを生む	・日常生活の出来事について深く考察した文章を読んで、自らの日常生活について振り返る。 ・意見文を書く際の問いの立て方について学び、「書く」ことについての基本的な姿勢について考える。	○	○	○
	期末考查	評論Ⅲ 評論Ⅳ	・「異文化理解」や「共生」という観点から筆者の主張を読み取り、自然と人間との関係について考える。 ・技術革新についての筆者の主張を読み取り、進歩する技術と人間の在り方について自らの考えをまとめる。	○	○	○
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>SDGs 番号9：産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>13：気候変動に具体的な対策を</p> <p>14：海の豊かさを守ろう</p> <p>15：陸の豊かさを守ろう</p> <p>技術革新や環境問題に目を向け、問題解決に向けた取り組みについて話し合う。</p> </div>		○	○	○
	課題考查	2学期の復習	・冬季課題から出題。	○	○	○

3 学 期	学年末 考 査	境界をこえて 評論Ⅴ 実社会	<ul style="list-style-type: none"> ・「境界」という観点からさまざまな題材の文章を読み、多角的なものを見方を養う。 ・「人類学」や「社会科学」の観点から近代化の問題点について述べた文章を読み、現代の社会問題について考えを深める。 ・実社会で役立つ文章の書き方を習得し、自らと実社会の関わりについて考える。 	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 1年間の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・春季課題あり。 ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。 	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握することができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしている。 ・人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めようとしている。 <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>1 授業を受けるときの約束事</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 忘れ物をしない。(忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る) (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 正しい姿勢で授業に臨む。 <p>2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 テスト範囲の問題集をもう一度解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。 <p>3 成績のつけ方</p> <p>上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
文学国語	[国語]

履修学科	普通科 文系
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	新編文学国語 (大修館書店)
副教材	常用漢字ダブルクリア (尚文出版)

科目目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

学期	考査	単元名 (考査範囲)	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考査	1年次の復習	・春季課題から出題する。	○	○	○
	期末考査	1 明日をひらく 2 小説を楽しむ (一)	・筆者が大切だと考えていることを読み取り、理解する。 ・筆者の考えと比較しながら、自分の生き方について考えを深める。 ・場面の設定の仕方を通して登場人物の心情を考える。 ・情景描写の効果を考えながら読む。 ・語句のはたらきに注目して読む。	○	○	○
	課題考査	1学期の復習	・夏季課題から出題する。 ・読書に親しむ。	○	○	○
2学期	中間考査	古典の世界1 3 詩を味わう 4 名作を読む (一)	・話のおもしろさと教訓をとらえる。 ・詩に表された作者の心情を読み味わう。 ・詩のさまざまな表現と、その効果について考える。 ・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・漢文訓読調の文章の魅力を味わう。	○	○	○
	期末考査	古典の世界2 5 社会に生きる	・登場人物の心情とその変化を読み取る。 ・登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取る。 ・仕事や自然に対する描写や込められた寓意を読み取り、ものの見方、感じ方を豊かにする。	○	○	○
	SDGs 番号16：平和と公正をすべての人に 戦争体験を題材にした文章を読み、戦争がもたらしたものについて考えることをとおして、平和で公正な社会をつくる態度を養う。					
	課題考査	2学期の復習	・冬季課題から出題する。 ・読書に親しむ。	○	○	○

3 学 期	学 年 末 考 査	6 表現を味わう 古典の世界3 恋のうた	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。 ・作品に表れている作者の感性をとらえる。 ・それぞれの作品に描かれている情景や心情を読み取る。 ・詩歌の形式や表現の特徴について理解を深める。 	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 1年間の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・春季課題あり。 ・新年度の課題考査の範囲になる場合もある。 	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章の種類や特徴について理解している。 ・文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化の特質について理解している。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確にとらえ、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察している。 ・作品が成立した背景や他の作品との関係を踏まえて解釈している。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、学習活動、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとしている。 ・意欲的な態度で授業に参加し、主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・読書に親しむことで自己を向上させようとしている。 <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>1 授業を受けるときの約束事</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教科書やノート等を準備し、忘れ物をしない。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る） (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 授業で身に付けたい力、学ぶべきことを明確にしたうえで授業を受ける。 (4) 積極的に自分の意見を述べたり、周囲と共有したりする。 <p>2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 予習…教科書の文章を音読する。分からない語句は調べ、内容の大筋をとらえる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。新しい気づきはメモをとる。 解答の根拠を確認し、自分で解答をまとめる練習をする。 (3) 復習…再度教科書を読む。授業ノート読み返してポイントを確認したり、問いをまとめ直したりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。 解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…日頃の学習の延長線上に考査があるため、日頃の学習をおろそかにしない。 授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き、正解した問題も含めて解説をしっかりと読みこむ。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し学習する。 <p>3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
古典探究	[国語]

科目目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

履修学科	普通科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	高等学校古典探究（数研出版）
副教材	学ぶぞ古文と漢文（尚文出版） 必携頻出古文単語340＋漢文語彙 210 ダブルスタイル550（尚文出版）

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	1年次の復習	・春季課題から出題する。	○	○	○
	期末考查	古文1 説話	・古文の言葉の特徴や使い方について知る。	○	○	○
		漢文1 故事	・漢文の言葉の特徴や使い方について知る。			
		古文2 歌物語	・和歌の決まりを知り、物語の内容をとらえる。			
	古文3 随筆（一）	・随筆に書かれた筆者のものの見方・考え方に触れ、自分の考えを深める。				
2学期	課題考查	1学期の復習	・夏季課題から出題する。	○	○	○
	中間考查	古文4 和歌・歌謡・俳諧	・韻文の決まりや特徴を知り、作品を読み味わう。	○	○	○
		漢文2 漢詩	・漢詩の決まりや特徴を知り、作品を読み味わう。			
		古文5 日記文学（一）	・当時の文化の特質を知り、日記に書かれたものと文化の関係について考える。			
		古文6 物語	・人物関係や人物の描写について考える。 ・登場人物の心情や境遇について考える。			
	期末考查	古文7 随筆（二）	・構成・展開に注目しながら、随筆に書かれた筆者のものの見方・考え方について考える。	○	○	○
漢文3 史伝		・歴史的背景を踏まえ、登場人物の心情や境遇について考える。				
古文8 歴史物語		・敬語の決まりについて知る。 ・物語の時代背景と人物の境遇や心情について考える。				
	漢文4 思想	・諸家の思想のものの見方・考え方に触れ、自分の考えを深める。				
SDGs番号4：質の高い教育をみんなに 諸家が思想を広めるために遊説した歴史的背景を踏まえて思想の内容をとらえ、現代の教育がどのように広められているのかと比較して考える。						

3 学 期	課題 考 査	2学期の復習	・冬季課題から出題する。	○	○	○
	学 年 末 考 査	古文9 軍記物語 漢文5 文章 古文10 日記文学(二)	・文学をとおして歴史に触れることで、読書の意義と効用について考える。 ・構成・展開に着目しながら、作品に込められたテーマについて考える。 ・和歌の内容をとらえ、筆者の人物像について考える。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 1年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の範囲になる場合もある。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解している。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解している。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、古典特有の表現に注意して内容、構成、展開などを的確にとらえている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、学習活動、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品に興味をもち、古典文学と現代の作品とのつながりや、日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。 ・作品の描かれた背景を踏まえて、作者の心情や登場人物の心情を理解しようとしている。 <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>1 授業を受けるときの約束事</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教科書やノート等きちんと準備する。(忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る) (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 授業で身につけたい力、学ぶべきことを明確にしたうえで授業を受ける。 (4) 積極的に自分の意見を述べたり、周囲と共有したりする。 <p>2 勉強の仕方 ※どの場面でも、自分で考えることが大切です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 予習…音読と語句調べに取り組み、内容の大筋をとらえる。 (2) 授業…音読して古典のリズムに慣れる。重要単語や発表者の発言など、新しい気づきはノートにメモし、現代語訳を完成させる。発問については、解答の根拠を確認する。 (3) 復習…教科書を読み返し、授業ノートと照らし合わせて文章の内容や重要単語を見直す。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、解説の読み込みまで含めて取り組む。授業で扱った単語や文法事項などがあれば、復習しておく。 (5) 考査…日頃の学習の延長線上に考査があるため、日頃の学習をおろそかにしない。 文章を何度も音読する。授業ノートを見直し、疑問点は質問するなどして、文章のあらすじや要点を理解しておく。宿題はテスト範囲の問題を何度も解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読み込む。古文単語はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し学習する。 <p>3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
論理国語	[国語]

履修学科	総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	新編論理国語（東京書籍）
副教材	常用漢字ダブルクリア五訂版（尚文出版）

科目目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言語をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点			
				①	②	③	
1学期	課題考查	1年次の復習	・春季課題から出題。	○	○	○	
	期末考查	1 広がる風景 2 考える手がかり	・対比構造や比喩表現に注意して読み、日常のコミュニケーションの在り方や学ぶことの意味について考える。 ・具体例が示す内容を理解し、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、筆者の主張を読み取る。	○	○	○	
	課題考查	1学期の復習	・夏季課題から出題。	○	○	○	
2学期	中間考查	3 人間と知性	・文のつながりや事実と主張の関係に着目しながら論の構成を捉え、筆者の主張を読み取る。 ・「人間の知性」に関して考え方の異なる文章を読み比べ、自らの考えを深める。	○	○	○	
	期末考查	4 現実の中で 5 ものの見方	・論の構成における比喩表現の効果について学び、言葉と思考の関係について理解を深める。 ・提示された問いや根拠を整理し、説得力のある論証について理解を深める。	○	○	○	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> SDGs 番号14：海の豊かさを守ろう 15：陸の豊かさを守ろう 絶滅危惧種の現状を学び、問題解決に向けた取り組みについて考えを共有し合う。 </div>					
			仮説を立てて検証しよう	・日常生活で起こる現象について理由や原因を考え、仮説に対する検証を文章にまとめる。			
		課題考查	2学期の復習	・冬季課題から出題。	○	○	○

3 学期	学年末 考査	6 働くよろこび ・さまざまな観点から書かれた働くことに関する文章を 読んで、自らと社会との関わり方について考える。			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> SDG s 番号8：働きがいも経済成長も 9：産業と技術革新の基盤をつくろう 「働く」ことを通した社会との関わり方について考えたことを発表する。 </div>		○	○	○
	※	※学年末考査が終了した 後の授業内容 1年間の復習	・春季課題あり。 ・新年度の課題考査の範囲になる場合もあり。	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握することができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしている。 ・人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めようとしている。 <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>1 授業を受けるときの約束事</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 忘れ物をしない。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る） (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 正しい姿勢で授業に臨む。 <p>2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 テスト範囲の問題集をもう一度解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。 <p>3 成績のつけ方</p> <p>上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
論理国語	[国語]

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	探求論理国語（桐原書店）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言語をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	到達度テスト	・基礎学力の定着度を確認する。	○	○	○
	期末考查	評論Ⅰ 評論Ⅱ 「書く」一問いに答える	・文章の構成や論の展開に注意しながら、文章の内容を的確にとらえ、人間の想像力について理解を深める。 ・近代化・都市化によって生じた家族や人間の存在についての認識や考察を深める。 ・他者の視点や立場を意識して、小論文やレポートを書く力を身に付ける。	○	○	○
	課題考查	到達度テスト	・基礎学力の定着度を確認する。	○	○	○
2学期	中間考查	評論Ⅲ 体験と思索	・自らの文化に対する見方を見つめ直し、芸術についての自分の考えを深める。 ・筆者の問題意識を的確に捉え、筆者が自らの体験から考えたことを読み取る。	○	○	○
	期末考查	評論Ⅳ 近代を見つめる 実社会	・自らの文化や世界に対する見方を見つめ直し、現代をどう生きていくかについて考える。 ・筆者の考えを読み取り、近代という時代や文化を見つめ直す。 ・実用的な文章の読み解き方を習得し、実社会との関わりを実感をもって捉える。	○	○	○

SDGs 番号 16：平和と公正をすべての人に
 戦争と平和について綴った文章を読んで、「他者理解」や「戦争と平和」といった問題について認識を深める。

3 学期	卒業 考查	評論Ⅴ	・抽象性の高い評論文を読んで論理の展開を学ぶとともに、自己の生き方や社会の在り方について考察する。	○	○	○
---------	----------	-----	---	---	---	---

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考查</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。 ・文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握することができる。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考查</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしている。 ・人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めようとしている。 <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>1 授業を受けるときの約束事</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 忘れ物をしない。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る） (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 正しい姿勢で授業に臨む。 <p>2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。 (3) 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考查…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 テスト範囲の問題集をもう一度解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。 <p>3 成績のつけ方</p> <p>上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考查等によって総合的に評価します。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
文学国語	[国語]

履修学科	普通科 文系
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	新編 文学国語 (大修館書店)
副教材	常用漢字ダブルクリア (尚文出版)

科目目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

学期	考查	単元名 (考查範囲)	学習活動	評価の観点			
				①	②	③	
1 学期	課題 考查	到達度テスト	・基礎学力の定着度を確認する。	○	○	○	
	期末 考查	随想・評論 (一)	・言葉による世界の多様などらえ方に着目し、自然と人間との関係における言語表現の魅力を味わう。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>SDGs 番号 15 : 陸の豊かさを守ろう 自然と人間との関わりについて書かれた文章を読み、言葉を通して自然の美を鑑賞してきた日本人の感性を理解することで、自然を保護しようとする態度を養う。</p> </div>	○	○	○
		小説 (一)	・文体の特徴とその効果について理解を深めるとともに、作品を通して日常的なできごとや体験の意味を振り返る。				
		小説 (二) 視点を考えて書く	・表現の特徴を捉え、その効果や意味を考えるとともに、寓意による表現方法の批評性について理解を深める。 ・語り手の視点を意識して文章を書く。				
課題 考查	到達度テスト	・基礎学力の定着度を確認する。	○	○	○		
2 学期	中間 考查	随想・評論 (二)	・言語表現による自然や文化の捉え方に着目し、日本の伝統的な価値観やその変化について考えを深める。	○	○	○	
	期末 考查	小説 (三)	・登場人物の視点を通して、世界の捉え方について考えを広げる。	○	○	○	
		小説 (四)	・時代背景や舞台設定の意味について考え、登場人物の境遇と心情の関係を捉える。				
3 学期	卒業 考查	小説 (五)	・作品の構造を捉え、日常と違う世界について想像を広げる。	○	○	○	

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文学的な文章の種類や特徴について理解している。 ・ 文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解している。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・ 我が国の言語文化の特質について理解している。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確にとらえ、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察している。 ・ 作品が成立した背景や他の作品との関係を踏まえて解釈している。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、学習活動、考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとしている。 ・ 意欲的な態度で授業に参加し、主体的な発言や話し合いをしようとしている。 ・ 読書に親しむことで自己を向上させている。 <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

<p>1 授業を受けるときの約束事</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 教科書やノート等を準備し、忘れ物をしない。(忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る) (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 授業で身に付けたい力、学ぶべきことを明確にしたうえで授業を受ける。 (4) 積極的に自分の意見を述べたり、周囲と共有したりする。 <p>2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 予習…教科書の文章を音読する。分からない語句は調べ、内容の大筋をとらえる。 (2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。新しい気づきはメモをとる。 解答の根拠を確認し、自分で解答をまとめる練習をする。 (3) 復習…再度教科書を読む。授業ノート読み返してポイントを確認したり、問いをまとめ直したりする。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。 解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。 (5) 考査…日頃の学習の延長線上に考査があるため、日頃の学習をおろそかにしない。 授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 問題集をもう一度解き、正解した問題も含めて解説をしっかりと読みこむ。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し学習する。 <p>3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
古典探究	[国語]

科目目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	高等学校古典探究（数研出版）
副教材	学ぶぞ古文と漢文（尚文出版） さくらさく古文単語（浜島書店）

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	到達度テスト	・基礎学力の定着度を確認する。	○	○	○
	期末考查	古文 随筆	・随筆を読んで自然、人間、社会などに対する作者の思想や心情に触れ、自分の考えを広げたり深めたりする。			
		漢文 逸話	・漢文を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深め、登場人物の行動や考えを読み取る。			
		古文 日記文学	・登場人物のやりとりや和歌に込められた心情を読み取り、贈答歌の手法について理解する。	○	○	○
		漢文 小説	・登場人物の言動を整理し、心情を考察しながら、中国の小説を読み味わう。			
古文 物語	・場面の状況や登場人物の言動と心情を的確に読み取る。					
2学期	課題考查	到達度テスト	・基礎学力の定着度を確認する。	○	○	○
	中間考查	漢文 史伝	・作品の背景を踏まえながら登場人物の行動とその意図を読み取り、強国に対抗する人々の逸話を読み味わう。			
		古文 歴史物語	・時代背景と関連付けながら文章を読み、語り手の立場や歴史を描く態度について考えることで、作品の特徴について理解する。			
		古文 説話	・漢詩や中国の伝承を取り入れた文章を読むことで、漢文と和文のつながりや関わりについて理解する。	○	○	○
	<p>SDGs番号16：平和と公正をすべての人に 古典を通じて我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深め、社会人・国際人としての素養を養う。</p>					
期末考查	漢文 文章	・主張を効果的に伝えるための修辞や論理展開に着目し、筆者の主張を的確に読み取る。				
古文 評論	・物語や和歌などに関する評論を読み、筆者のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の考えを広げたり深めたりする。	○	○	○		
古文 近世随筆	・筆者が肯定するものの見方と否定しているものの見方を読み取るとともに、既習の随筆と比較することで、昔の作品が後世の作品に与えた影響について考える。					

3 学期	卒業 考查	漢文 漢詩	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の近代詩の特徴と比較しながら作品を読み味わう。 ・表現をもとに作者の心情や描かれた情景を理解する。 ・作品の文学史的な位置や時代背景について理解し、登場人物の人生観や心情の変化について考察する。 	○	○	○
		古文 近世小説				

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解している。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解している。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、考查</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、古典特有の表現に注意して内容、構成、展開などを的確にとらえている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。 <p>【評価の対象】 課題、レポート、学習活動、考查</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品に興味をもち、古典文学と現代の作品とのつながりや、日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。 ・作品の描かれた背景を踏まえて、作者の心情や登場人物の心情を理解しようとしている。 <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
<p>1 授業を受けるときの約束事</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教科書やノート等きちんと準備する。（忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る） (2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。 (3) 授業で身につけたい力、学ぶべきことを明確にしたうえで授業を受ける。 (4) 積極的に自分の意見を述べたり、周囲と共有したりする。 <p>2 勉強の仕方 ※どの場面でも、自分で考えることが大切です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 予習…音読と語句調べに取り組み、内容の大筋をとらえる。 (2) 授業…音読して古典のリズムに慣れる。重要単語や発表者の発言など、新しい気づきはノートにメモし、現代語訳を完成させる。発問については、解答の根拠を確認する。 (3) 復習…教科書を読み返し、授業ノートと照らし合わせて文章の内容や重要単語を見直す。 (4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、解説の読み込みまで含めて取り組む。授業で扱った単語や文法事項などがあれば、復習しておく。 (5) 考查…日頃の学習の延長線上に考查があるため、日頃の学習をおろそかにしない。文章を何度も音読する。授業ノートを見直し、疑問点は質問するなどして、文章のあらすじや要点を理解しておく。宿題はテスト範囲の問題を何度も解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読み込む。古文単語はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し学習する。 <p>3 成績のつけ方 上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考查等によって総合的に評価します。</p>

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
論理国語	[国語]

履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	新編論理国語（東京書籍）
副教材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

科目目標
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言語をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	課題考查	2年次の復習	・春季課題から出題。	○	○	○
	期末考查	時代をひらく 新しい視点から	・論理展開に注意して評論を読み、扱われている問題を的確に捉える。 ・体験に基づく文章を読み、表現に注意して筆者の考えを捉える。	○	○	○
	課題考查	1学期の復習	・夏季課題から出題。	○	○	○
2学期	中間考查	科学と人間 豊かな認識	・科学や哲学の見地から書かれた評論文を読んで、人間について考えを深める。 ・評論文を読んで主張を的確に理解し、論じられている物事への認識を深める。	○	○	○
	期末考查	知のゆくえ	・対比に注意して評論文を読み、筆者の主張を的確に捉える。	○	○	○
3学期	卒業考查	明日をみつめて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">SDGs 番号8：働きがいも経済成長も 経済や未来に関する文章を読み、社会や消費活動等の在り方について考える。</div>	・具体例と抽象的な説明に着目して、評論文の内容を的確に読み取る。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。</p> <p>・ 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。</p> <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<p>・ 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。</p> <p>・ 文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握することができる。</p> <p>【評価の対象】 課題、レポート、考査</p>	<p>・ 新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしている。</p> <p>・ 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めようとしている。</p> <p>【評価の対象】 学習活動への参加の仕方や態度、課題</p>

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

<p>1 授業を受けるときの約束事</p> <p>(1) 忘れ物をしない。(忘れ物をした場合は、事前に教科担任に申し出る)</p> <p>(2) 読む、書く、話す、聞く、のメリハリをつける。</p> <p>(3) 正しい姿勢で授業に臨む。</p> <p>2 勉強の仕方 ※どんなときも、自分で考えることが大切です。</p> <p>(1) 予習…教科書の文章を音読する。読めない漢字は必ず調べる。</p> <p>(2) 授業…先生や発表者の発言をよく聞く。必要な箇所はメモをとる。</p> <p>(3) 復習…授業ノートを読み返したり、覚えていない漢字をノートに書いたりする。</p> <p>(4) 宿題…空欄を残さないようにする。辞書で調べるなどのひと工夫が大事。解くことだけで満足せず、見直し、訂正、その後の理解まで含めて取り組む。</p> <p>(5) 考査…授業ノートを見直し、文章のあらすじや要点を説明できるようにする。 テスト範囲の問題集をもう一度解き、正解した問題も含め解説をしっかりと読む。 漢字はテスト形式にするなどして、覚えるまで繰り返し書く。</p> <p>3 成績のつけ方</p> <p>上記の評価の観点に基づき、授業時の成果物や考査等によって総合的に評価します。</p>
--